

2017年9月22日

新入社員の真剣勝負 約100日間の実践型教育の集大成

たす ひく

丹青社「人づくりプロジェクト展2017 +とー」を開催

オープニングイベント、ギャラリートークに加え
会場づくりに携わったアーティストによるトーク&ミニライブも

商業・文化施設などの空間づくりをおこなう株式会社丹青社（本社：東京都港区／代表取締役社長：高橋貴志）は、「人づくりプロジェクト展2017 +（たす）とー（ひく）」を、2017年9月28日（木）よりアクシスギャラリー（東京・六本木）で開催します。

今年で7回目となる本展では、当社社員教育の一環として、新入社員が第一線で活躍するデザイナーや一流の職人とともに約100日間で作ったプロダクトを通し、当社が「人づくり」に取り組む姿勢とこだわりをお伝えします。

9月29日（金）にはオープニングのトークイベント、9月30日（土）、10月1日（日）にはプロジェクトにとともに取り組んだデザイナーと新入社員によるギャラリートーク、さらに本年は2日（月）、3日（火）に会場づくりに携わったアーティストを招いたトーク&ミニライブをおこないます。



制作したプロダクト

[apo] デザイナー：藤森泰司（藤森泰司アトリエ）

[マルキサン] デザイナー：上垣内泰輔・宮本厚樹（丹青社）

撮影：尾鷲陽介

■「人づくりプロジェクト」とは

丹青社入社直後の基礎研修を終えてから配属までの約100日間、新入社員全員が数名の班に分かれ、プロダクトの完成を目指します。第一線で活躍するデザイナーや一流の職人との真剣勝負を通して、新入社員は「仕事を進めるうえで大切なこと」を経験します。新しい何かを生み出す仕事では、多様な人材の考え方、能力を活かしあい、うまく結び付けて課題解決や価値創造を果たすことが重要です。このプロジェクトの目的は、ものづくりそれ自体ではありません。「人と人の関係を築き、お互いのもてる能力を最大限に引き出す」という、仕事に取り組む上でもっとも大事な「作法」を学びます。

本プロジェクトは「KAIKA Awards2016」（主催：一般社団法人日本能率協会）において、「自ら育ち、共に育ち続ける組織・場づくりの実践」として、KAIKA賞を受賞しました。

■ 「人づくりプロジェクト展 2017 ^{たす}+とー^{ひく}」開催概要

開催日時	2017年9月28日(木)～10月3日(火) 11:00～20:00 ※最終日のみ17:30まで
会場	アクシスギャラリー (東京都港区六本木5-17-1 アクシスビル4F)
入場料	無料
主催	株式会社 丹青社
参加デザイナー (順不同、敬称略)	芦沢啓治 (芦沢啓治建築設計事務所)、伊東 裕・剣持良美 (SOL style)、 角田陽太 (YOTA KAKUDA DESIGN)、小林幹也 (小林幹也スタジオ)、 鈴野浩一 (トラフ建築設計事務所)、寺田尚樹 (インターオフィス)、 長岡 勉 (POINT)、鳴川 肇 (慶應義塾大学 鳴川肇研究室)、 橋本 潤 (フーニオデザイン)、林 裕輔・安西葉子 (DRILL DESIGN)、 藤森泰司 (藤森泰司アトリエ)、湯澤幸子 (ASSOCCA STYLE)、 上垣内泰輔・宮本厚樹 (丹青社)
協力	アクシスギャラリー 朝日信用金庫、桐生信用金庫、西武信用金庫 TAMA 協会 (首都圏産業活性化協会)、東濃信用金庫、東和銀行

■ オープニングイベント 概要

1部では鍛冶屋の岡本友紀氏を迎え、プロジェクトに関わったデザイナーと今回のテーマである「+ (たす) とー (ひく)」を掘り下げて語ります。2部では、プロダクト制作参加デザイナーの4名が今回制作のプロダクトについて語ります。

- 9月29日(金) 19:00～19:50 トークイベント：1部 テーマ「+ (たす) とー (ひく)」
登壇者：岡本友紀氏 (la forgeron 代表)、湯澤幸子氏、
上垣内泰輔・宮本厚樹 (丹青社)
- 19:50～20:30 トークイベント：2部 テーマ「制作プロダクト」
登壇者：寺田尚樹氏、長岡 勉氏、藤森泰司氏、湯澤幸子氏
- 20:30～21:15 フリータイムトーク
HOME.フルタヨウコさんアレンジの軽食をご用意します。

■ トーク&ミニライブ 概要

音楽と映像の構成の面白さや奥深さを語るトークと、「人づくりプロジェクト展 2017」のために制作した会場BGM、会場で上映されている映像の楽曲等をお楽しみいただけます。(無料、申込不要)

- 10月2日(月) 18:00～18:45 トーク：MAKI氏 (MAKI code “M”)、奈須一葉氏
ライブ：MAKI氏 (MAKI code “M”)
- 10月3日(火) 13:00～13:45 トーク：進藤陽悟氏、奈須一葉氏
ライブ：進藤陽悟氏

■ ギャラリートーク

デザイナーと新入社員のチームで制作した各プロダクトについて、デザイナーが解説し、ご来場いただいた皆さまからの質問等にも直接お答えします。

日時	参加デザイナー
9月30日(土) 13:00~13:30	上垣内泰輔・宮本厚樹(丹青社)
13:30~14:00	寺田尚樹(インターオフィス)
14:00~14:30	鳴川 肇(慶応義塾大学 鳴川肇研究室)
14:30~15:00	橋本 潤(フーニオデザイン)
16:30~17:00	湯澤幸子(ASSOCCA STYLE)
17:00~17:30	林 裕輔・安西葉子(DRILL DESIGN)
17:30~18:00	角田陽太(YOTA KAKUDA DESIGN)
10月1日(日) 13:00~13:30	芦沢啓治(芦沢啓治建築設計事務所)*
13:30~14:00	鈴野浩一(トラフ建築設計事務所)*
14:00~14:30	藤森泰司(藤森泰司アトリエ)
16:30~17:00	小林幹也(小林幹也スタジオ)
17:00~17:30	伊東 裕・剣持良美(SOL style)
17:30~18:00	長岡 勉(POINT)

*印はデザイナーの都合により、当社メンバーのみのトークとなります。

※都合により予告なく、出演者が変更になる場合がございます。予めご了承ください。

■ 丹青社について

「ここを動かす空間創造のプロフェッショナル」として、店舗などの商業空間、博物館などの文化空間、展示会などのイベント空間等、人が行き交うあらゆる空間づくりの課題解決をおこなっている企業です。調査・企画から、デザイン・設計、制作・施工、運営まで、空間づくりのあらゆるプロセスをサポートしています。

社名 : 株式会社丹青社
所在地 : 東京都港区港南 1-2-70 品川シーズンテラス 19F 〒108-8220 (本社)
設立 : 1959年12月25日
資本金 : 40億2,675万657円(2017年1月31日現在)
上場 : 東京証券取引所市場第一部 (証券コード: 9743)
URL : <http://www.tanseisha.co.jp>

<登壇者>

■ 9月29日（金）オープニングトークイベント 1部



岡本友紀 (la forgeron 代表)：証券会社の営業担当から一転、鍛冶の世界へ。広島のアトリエを拠点にオーダーメイドで照明などのインテリアから大型のオブジェまで様々な作品を手掛け、国内外で活動中。



湯澤幸子 (ASSOCCA STYLE)：ミュージアム、複合商業施設、ホテルなど幅広い分野でデザイン企画・設計等を行う。自然を愛し、身体を整える「HOLISTIC」という概念と、「デザインは幸せ感を創出する」がモットー。：



上垣内泰輔 (丹青社)：飲食店からアパレルまで専門店の店づくりを数多く手がける。分析と考察をもとに、ブランドの神髄を抽出する。対話の積み重ねを大切に、事業をサポートしている。



宮本厚樹 (丹青社)：ショッピングセンター、百貨店等、大型商業施設のデザインを手掛ける一方、培った創作力、技術力を活かし、折り紙を用いたアートオブジェのデザイン・製作も行う。

■ 9月29日（金）オープニングトークイベント 2部 []内は制作したプロダクト名



長岡 勉 (POINT) [ビッグ・ウリホウズキ]：建築・インテリアの設計業務の他に、クリエイターのためのシェアオフィス<co-lab>の設立に参加する等の活動を行う。



藤森泰司 (藤森泰司アトリエ) [apo]：家具デザインを中心に捉え、建築家とのコラボレーション、プロダクト・空間デザインを手がける。スケールや領域を超えた家具デザインの新しい在り方を目指して活動する。



寺田尚樹 (インターオフィス) [CUCU DOZEN]：建築、インテリア、家具、プロダクト、サインなど、空間に関わる設計／デザインを手がける。プロダクトブランド「テラダモケイ」「15.0%」を展開する。

湯澤幸子 (ASSOCCA STYLE) [Ray]

■ 10月2日（月）、3日（火）トーク&ライブ



MAKI (MAKI code "M")：作編曲家&ピアニスト。FIFA 等国際組織のイベントプロデューサー、幅広い楽曲提供のほか、ピアニストとしてもジャンルを問わず活動する。



進藤陽悟：21歳からジャズピアニストとして活動を始め、アルバムをリリース。他ミュージシャンのアルバムプロデュースのほか、ソロピアノやファンクビッグバンド等で全国的に活動中。



奈須一葉：映像作家、フォトグラファー。自由な感覚、発想を生かし、企業、ファッションブランド、ミュージシャン、アーティストにPV、MVを国内外問わず提供する。

ものづくりは人づくりに始まる

丹靑社の新入社員は、人事部が行う入社直後の基礎研修を終えてから配属までの約100日間、専任の教育チームとともにもうひとつの課題に向き合って過ごします。配属後の職種にかかわらず、全員が数名の班に分かれてそれぞれ1台の制作物（いわば「プロダクトのプロトタイプ」）を完成させるオリジナルの実践型研修。これが新入社員教育の一環として行われる「人づくりプロジェクト」の中心プログラム、「プロダクト制作」実習です。

第一線で活躍するデザイナーや一流の職人が参加し、そうした協力者との真剣勝負を通して、新入社員は最初の成長を経験します。単なるものづくり体験や技能の習得にとどまらない、「仕事を進めるうえで大切なこと」を学ぶ機会がそこにあります。また早い段階で優れた才能に触れ、ともにプロジェクトを成功させることで、多様な人材との信頼関係を築く貴重な経験もします。新入社員は、こうしてそれぞれの職場・現場での仕事の基礎を養い、また自らの今後の成長につながる人脈づくりをスタートさせていきます。

生みだされるもの — 「プロダクト」に込めた意味

人づくりのエッセンスを濃縮

配属後の新入社員は、店舗や展示施設などさまざまな空間づくりの現場に携わり、それぞれが担当する実務やお客さまとの関わりを通じて多くを学んでいきます。一方、それに先立つ教育期間中の本プログラムでは、彼らにはあえて単体の「プロダクト」を作り上げるプロセスを体験させています。一定期間でコンセプトの構築から実際の製作までの全工程をひととおり経験できる、完結型のプロジェクト体験が可能な点が大きな違いです。また配属後の現場実務では避けられない各種の制約を離れ、よりコントロールされた条件と一貫した指導方針のもと、短期集中で効果的な育成を行います。専任担当者による手厚い指導や新入社員同士の相互研鑽を生み出す一体感もポイントです。そこには「人づくり」の大切な要素がたくさん詰まっています。デザインやものづくりに限らず、多くの仕事に通じる普遍的なものを得られる機会として、まさに「ものづくりのための人づくり」の恰好の題材となります。

「SHELF」から「プロダクト」へ

「プロダクト制作」のルーツである2005年からの「什器制作研修」では、受付などに置かれる「電話台」のような具体的なテーマが設定されていました。「椅子」や「テーブル」といった機能的な条件の比重が大きい家具に比べ、設計・制作上の自由度が大きく、実現にあたって取り組むべき課題解決に広がりをもたせられるものが選ばれていました。

2009年から、この取り組みは「SHELF（シェルフ、棚）制作研修」へと発展します。技術職むけの技能教育の枠を超え、配属後の職種にかかわらず全新入社員が対象となりました。社外の著名デザイナーが参加するようになり、新入社員も一緒にコンセプトを固めていくプロセスが持ち込まれました。シンプルだからこそ広がりがあり、完成度が求められるテーマのもとで、各チームでそれぞれ何を実現するか、何にもっともこだわるべきか、などを共有・醸成していく過程を重視。新入社員が苦闘しながら仕事の本質に通じる部分を学びとる、リアルな実戦体験の場へと進化してきました。

2014年度の研修からは、「棚」という限定すら取り払い、より自由な発想でプロダクトを生み出しています。「プロダクト制作」としたことで、新入社員を含むチームの思考が一段階広がるとともに、より物事を掘り下げて理解し、形にして他者に伝えることが求められるため、研修の高度化が図られます。新入社員は自分の居場所をつくるだけでなく、プロダクトに何を与え、成果に結びつけたか？というさらに高度化した課題に挑戦。先入観に縛られることなく思考し、成果物であるプロダクトや先輩であるデザイナー、協力会社の人々に新入社員は、自分の参加した証をオクル必要があり、素直な本来の自分から発言したことにより得られるあたらしいケシキを大切に、成果に結びつけます。



撮影：尾鷲陽介

生みだされるもの — プロとして成長し続ける人材

仕事の作法と人脈形成の基礎を与える

「プロダクト制作」の目的は、ものづくりそれ自体ではありません。多くの人との「協業」なしに丹青社の仕事が成り立たず、ものづくりの基盤として人との繋がりが大切であることをしっかりと体感します。また、会社や組織の枠組みを超えた多くの人とプロジェクトに取り組み、多彩な知恵を結びあわせて新たな価値を生み出していくという、丹青社の仕事の本質を実体験します。プロダクト制作は、「人と人の関係を築き、お互いのもてる能力を最大限に引き出す」という、彼らの仕事でこれからもっとも大事になる「作法」を学ぶプログラムです。

仕事の「軸」を見失わない

「プロダクト制作」を通して学ぶ重点のひとつが、仕事を進めるうえで不可欠な「軸」の大切さと、それをどのように見出すかです。実際に制作が進むなか、新入社員はコストや納期、あるいは技術的な問題といった課題にいくつも直面していきます。しかし、そうしたハードルを超えることが仕事の究極の目的ではありません。それらをクリアしてなお、求めなければならない仕事の核心は何か、いま取り組んでいる仕事では何を目指し、何を実現させようとしているのか。いわば仕事の「コンセプト」について深く探求することを彼らには求めます。得られた答えはその仕事を進めるうえでの指針となり、迷ったときの判断基準となります。核心をとらえることが仕事の成果の質を高めることにつながる、その最初の経験をさせるのが「プロダクト制作」です。

知恵を集めてカタチにするチカラ

このプログラムで学ぶもうひとつの重点は、他者との交わりのなかで目的を果たすことと、そこでの自らの役割です。プロダクト制作には社外のデザイナーや職人が参加しますが、新入社員に期待される役割は単なる「連絡係」ではありません。彼らには、関係者と仕事の「コンセプト」を共有し、ひとつの目的にむけて全員の能力を最大限に発揮させる「ディレクション」の働きを求めます。立場や考え方が違う関係者の意見をまとめ、互いの溝を埋めていくというリアルな経験を通して、その基本を体験する機会なのです。

人と人とを結んで高い成果を残すには、プロジェクト内でメンバーとの信頼関係を築き、「必要とされる人」にならねばなりません。人との交わりのなかでの影響力、存在価値をもって仕事をするという姿勢が、今後の彼らの仕事に不可欠となる多彩な人脈づくりの基礎になっていきます。

はじめての成果には、成長のためのヒントがある

「プロダクト制作」は、これから働くうえで生涯の基本であり課題となる、人との接し方、ひいては自らの成長の必要性を学ぶプログラムです。一人ひとりがプロフェッショナルとしての成長を続けていく社員をつくるための取り組みともいえます。時代とともにお客さまや社会のニーズの変化に対応し、よりよい空間をつくり続けるために、私たちはつねに自らを成長させなくてはなりません。これは、丹青社として目指す「お客さまや社会と共に成長し続ける企業」であるために必要な「人づくり」のプロジェクトにほかなりません。



撮影：太田拓実

人づくりプロジェクト展

丹青社では、2011年から毎年、六本木アクシスギャラリーにおいて「人づくりプロジェクト展」を開催。プロダクト制作で生まれた「プロダクト」の展示を通し、人づくりプロジェクトに取り組む姿勢と意思をお伝えしています。

9月30日(土) 10月1日(日) 時間未定
人づくりプロジェクト参加デザイナーによるギャラリートークを予定しています。

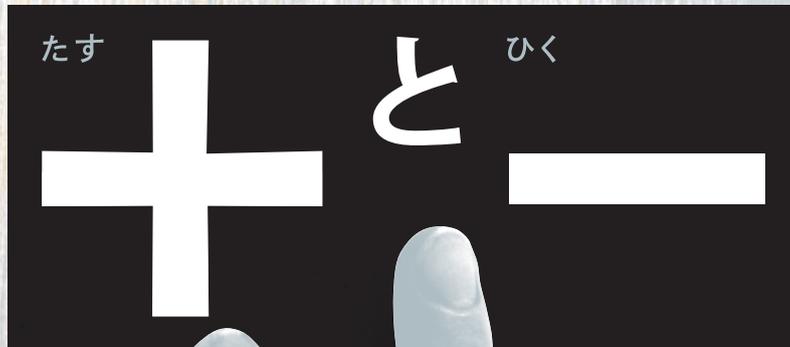
ギャラリートーク

オープニング
イベント

9月29日(金) 19:00-20:30
トークイベント終了後、20:30-21:15フリートークタイムを予定。

2017年9月28日(木)-10月3日(火)
11:00-20:00 (最終日は17:30まで)

人づくりプロジェクト 展 2017



株式会社 丹青社

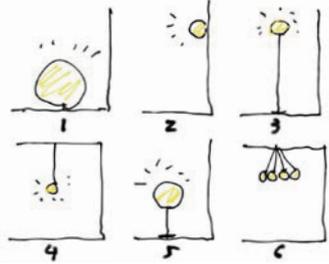
入場無料

商業施設や博物館、展示会・イベントなどの空間のデザイン・施工・運営を手掛ける丹青社では、会社や組織の枠組みを超えてプロジェクトに取り組むこと、職種や専門性、経験の違いを超えて多様な知恵を結びつけ新たな価値を生み出していくことを大切にしています。
本展では2005年より継続しているオリジナルの実践型新入社員育成プログラム「人づくりプロジェクト」のご紹介と共に、人づくりに取り組む姿勢とこだわりをお伝えします。

後日、ウェブサイトで www.tanseisha.co.jp で発表します。
オープニングイベントとギャラリートークの内容・時間など詳細については

たす ひく
+とーとは

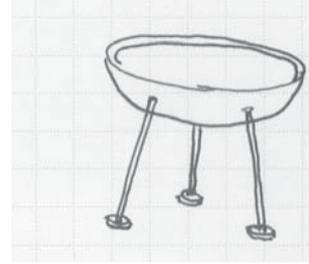
たし ひい
+たりーたり、これは校正や添削ではなく、必然をさがす大切な思考のプロセス。つくる、話す、説明するということにおいて必然という感覚的なことがらは様々な考えを交差させ、新しいコトへつながるハズマリをつくりつけます。この人づくりプロジェクト展の会場で多くの見方、考え方が重なり合っとうまれるなにかを見つけていただければ幸いです。



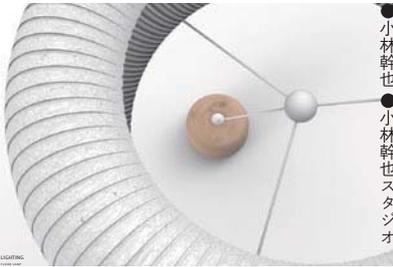
● 声沢啓治 ● 声沢啓治建築設計事務所



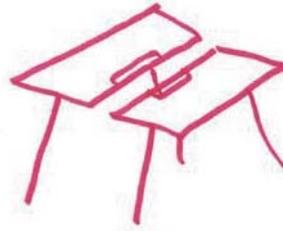
● 伊東裕・劔持良美 ● SOL style



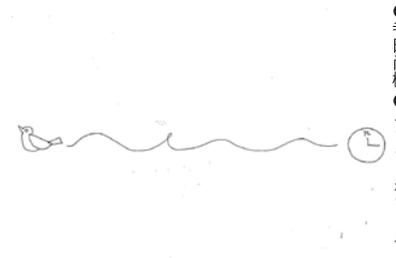
● 角田陽太 ● YOTA KAKUDA DESIGN



● 小林幹也 ● 小林幹也スタジオ



● 鈴野浩一 ● トラフ建築設計事務所



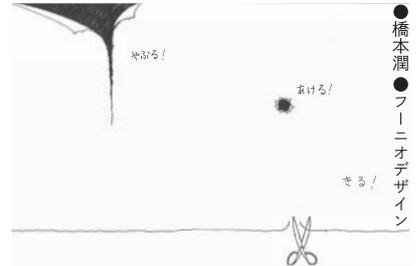
● 寺田尚樹 ● インターオフィス



● 長岡勉 ● POINT



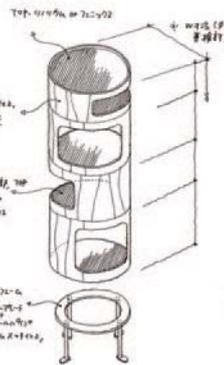
● 鳴川肇 ● 慶應義塾大学 鳴川肇研究室



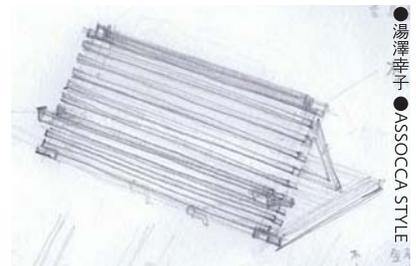
● 橋本潤 ● フォニオデザイン



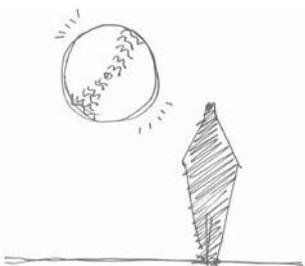
● 林裕輔・安西葉子 ● DRILL DESIGN



● 藤森泰司 ● 藤森泰司アトリエ



● 湯澤幸子 ● ASSOCCA STYLE



● 上垣内泰輔 宮本厚樹 ● 丹青社



会場: アクシスギャラリー

AXIS GALLERY

東京都港区六本木5-17-1 アクシスビル4階

TEL: 03-5575-8655 (会期中) www.axisinc.co.jp

東京メトロ日比谷線六本木駅3番出口、都営大江戸線六本木駅3・5番出口

東京メトロ南北線六本木一丁目駅1番出口 徒歩8分